

騰高 ガソリン

全国174円、福井177円

9週連続 13カ月ぶり水準

ガソリン価格が高騰している。経済産業省が20日発表した18日時点のレギュラーガソリン1L当たりの全国平均小売価格は174円40銭まで、前週調査から70銭上昇。9週連続で値上がりし、昨年6月以来13カ月ぶりの高値となった。政府が価格抑制のための補助を段階的に縮小していることが主因で、今後上昇傾向が続く見通し。自動車での遠出など夏の行業に痛みとなりそうだ。

サウジアラビアなど主要産油国が追加減産により、原油相場の下支えに動いていることも影響した。ガソリンの価格上昇に歯止めがかからず、ロシヤがウクライナに侵襲した昨年以降の暴落値である175円20銭に迫る勢いとなっている。調査した石油情報センターの担当

も安かった。福井県は10銭高の177円40銭。

ハイオクガソリンは全国平均で70銭高い184円80銭、軽油は60銭高い153円60銭、灯油は18銭(一般



ガソリン小売価格の推移
7月18日時点 174円00銭
(レギュラー、1L当たり、全国平均、消費税込み価格)

的なタンク1個分)当たり7円上昇し、20060円だった。いずれも9週連続の値上がりとなった。

政府の補助は石油元売り会社に支給し、卸価格の抑制を通じてガソリンスタンドでの小売価格に反映させる仕組み。経産省は18日時点のレギュラーガソリン価格に対して11円40銭の抑制効果があったと説明している。補助は6月以降、段階的に縮小して9月末で終了予定。今月20日からの補助金額は1L当たり10円20銭となる。

食品や日用品が値上がりして家計負担が増す中、ガソリン価格の上昇が続けば、夏休みの旅行や消費を控える動きにつながる可能性もある。

旅行需要回復に冷や水

ガソリン価格は6月半ば以降、全国平均で1L当たり1770円台が続ぎ、長野県や鹿児島県など1800円を超える地域も現れている。夏の旅行需要の回復に冷や水となりかねず、買い物や通勤などの移動に車が欠かせない地方では重い負担がかかると懸念がある。

新型コロナウイルス感染症の

地方は負担増

5類移行後の夏休みとなり、観光地では帰省や旅行で客足の戻りを待ち望む声が多い。長野県佐世保市のリゾート施設「ハウステンボス」は、アトラクションの利用人数制限などが撤廃され、にぎわいを取り戻しつつある。広報担当者は「夏の思い出づくりにも遊びにきてほしい」と期待するが、ガソリンの

値上がりも懸念材料となる。休日には家族連れでにぎわう神戸市立六甲山牧場の担当者も「牧場は山の上であり、車で来るお客さんが多い。ガソリン高騰による客数減を心配している」とこぼした。

と補助の延長も含みを持たせるものの、現時点では9月で終了する方針だ。石油連盟の木藤俊一会長(出光興産社長)はガソリン価格の上昇について「需要に対するあまり大きなインパクトはない」と述べ、政府に補助の延長を求めない考えだ。今後の価格動向次第では、行業への影響にとどまらず、車社会の地方を中心に導く企業活動に幅広く悪影響を及ぼす事態が懸念される。

物価 2.6% 上昇予測

政府 GDP は下方修正

23年度

内閣府は20日の経済財政諮問会議で、2023年度の消費者物価指数(生鮮食品含む総合)が前年度比2.6%上昇するとの見通しを示した。1月に閣議決定した見込みから0.9%上方修正。食品などに加えサービスの値上げが進んだことなどを反映した。見通し通りであれば1990年度以来の高い伸びとなった22年度の3.2%上昇に続く高水準となり、引き続き家計への重荷となりそうだ。

23年度の実質国内総生産(GDP)成長率は1.3%と予測。1月時点から0.2%引き下げた。物価高

が長期化し消費を冷え込ませる恐れもある中、政府が景気を下支えするため、どのような対策を講じるかが

今後の焦点となりそうだ。企業による賃上げが続くかどうかにも注目される。岸田文雄首相は会議で、

政府1月見通しと内閣府7月試算の比較	
	1月 7月
実質GDP成長率	1.5 1.3 ↓
消費者物価指数(総合)	1.7 2.6 ↑

※単位は%、前年度比。
↑は上方修正、↓は下方修正

物価高に関し「家計の実質所得に与える影響には十分な注意が必要だ。国民生活への影響を見極めつつ、国が目線に立った対応を進める」と強調した。

内閣府の予測によれば、24年度の消費者物価指数は1.9%上昇となる見込みだ。23年度と比較すると落ち着くものの、日銀が掲げる2%の物価安定目標に近い水準が続くとした。

23年度の実質GDPの見込みを下方修正したのは、中国などアジア向け輸出が1月時点の予測より下振れるとみためだ。項目別では、個人消費は0.6%引き下げ1.6%増。物価高が響くためという。設備投資は外需の弱さから企業が慎重になるなど見込み、2.0%下方修正して3.0%増とした。

景気実感に近いとされる各目GDPは物価上昇も踏まえ、2.3%上方修正の4.4%増とした。24年度の実質成長率は1.2%と見込んだ。